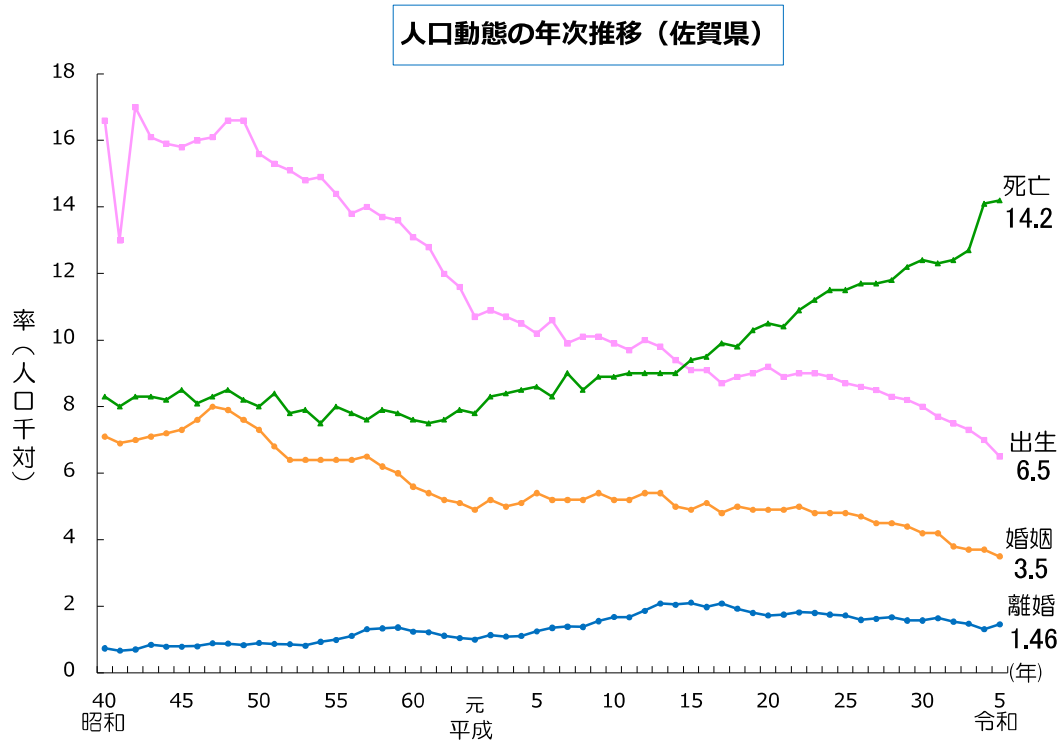


# 令和5年 人口動態統計月報年計（概数）の概況 ー佐賀県ー



## 目 次

### 結果の概要

人口動態総覧	1
1 出生数	2
2 合計特殊出生率	2
3 死亡数	3
4 死因順位	4
5 自然増減数	5
6 死産数	5
7 婚姻件数	5
8 離婚件数	5

### 統計表

第1表 主な死因別、悪性新生物の主な部位別死亡数・死亡率	6
第2表 選択死因死亡数・死亡率	7
第3表 死因別死亡数・死亡率	8
第4表 三大死因死亡数、性・年齢階級別	9
第5表 乳児死亡数、新生児死亡数	11
（参考） 合計特殊出生率について	12

## 概 数

## 人 口 動 態 総 覧

佐 賀 県

	実 数				率				全国順位		令和5年 平均発生 間 隔		
	令和 5年	令和 4年	増減	対前 年比 (R4年=100)	佐賀県		全 国		令和 5年	令和 4年			
					令和 5年	令和 4年	令和 5年	令和 4年					
出 生	5 144	5 552	△ 408	92.7	6.5	7.0	6.0	6.3	6	5	1	42	11
死 亡	11 199	11 204	△ 5	100.0	14.2	14.1	13.0	12.9	26	26	0	46	56
乳児死亡	12	6	6	200.0	2.3	1.1	1.8	1.8	8	43	730	0	0
新生児死亡	4	3	1	133.3	0.8	0.5	0.8	0.8	21	38	2 190	0	0
自然増減	△6 055	△5 652	△ 403	△107.1	△ 7.7	△ 7.1	△ 7.0	△ 6.5	16	16			…
死 産	108	94	14	114.9	20.6	16.6	20.9	19.3	23	43	81	6	40
自然死産	52	55	△ 3	94.5	9.9	9.7	9.6	9.4	22	25	168	27	42
人工死産	56	39	17	143.6	10.7	6.9	11.3	9.9	27	41	156	25	43
周産期死亡	16	17	△ 1	94.1	3.1	3.1	3.3	3.3	26	32	547	30	0
妊娠満22週 以後の死産	12	14	△ 2	85.7	2.3	2.5	2.7	2.5	36	30	730	0	0
早 期 新生児死亡	4	3	1	133.3	0.8	0.5	0.6	0.6	13	25	2 190	0	0
婚 姻	2 730	2 951	△ 221	92.5	3.5	3.7	3.9	4.1	19	22	3	12	32
離 婚	1 150	1 041	109	110.5	1.46	1.31	1.52	1.47	26	38	7	37	3
合計特殊 出生率	…	…	…	…	1.46	1.53	1.20	1.26	6	7			
生活 習慣 病 死亡													
悪性新生物	2 674	2 764	△ 90	96.7	340.2	348.5	315.6	316.1	19	17			
心 疾 患	1 505	1 567	△ 62	96.0	191.5	197.6	190.7	190.9	37	34			
脳血管疾患	694	704	△ 10	98.6	88.3	88.8	86.2	88.1	33	33			

(注) 1 比率算出に用いた人口

令和4年10月1日現在推計人口(日本人人口)

(総務省統計局「人口推計」)

佐賀県 793,000人

全 国 122,030,523人

令和5年10月1日現在推計人口(日本人人口)

(総務省統計局「人口推計」)

佐賀県 786,000人

全 国 121,193,394人

2 率は、出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚は人口千対、乳児死亡・新生児死亡・早期新生児死亡は出生千対、死産は出産(出生+死産)千対、周産期死亡・妊娠満22週以後の死産は出産(出生+妊娠満22週以後の死産)千対、生活習慣病死亡は人口10万対である。

3 合計特殊出生率とは、「15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」で、一人の女性がその年齢別出生率で一生涯の間に生むとしたときの子供の数に相当する。

4 全国順位は高率順位である。なお、同率であった場合、令和5年は概数値であるため、表示桁数により、また、令和4年は確定値であるため、表示以下桁数により順位を付している。

## 1 出生数は減少

出生数は5,144人で、前年の5,552人より408人減少し、出生率(人口千対)は6.5で前年の7.0を0.5ポイント下回った。

出生数を母の年齢階級(5歳階級)別にみると、30～34歳が1,700人で前年に引き続き最も多かった。また、15～44歳で前年を下回った。

母の年齢階級別出生数

佐賀県

母の年齢	出生数				対前年増減		
	令和5年	令和4年	令和3年	令和2年	(5-4)年	(4-3)年	(3-2)年
総数	5,144	5,552	5,853	6,004	△ 408	△ 301	△ 151
～14歳	-	-	1	-	-	△ 1	1
15～19	41	48	44	65	△ 7	4	△ 21
20～24	491	555	591	633	△ 64	△ 36	△ 42
25～29	1,475	1,570	1,652	1,664	△ 95	△ 82	△ 12
30～34	1,700	1,868	2,002	2,110	△ 168	△ 134	△ 108
35～39	1,147	1,199	1,259	1,284	△ 52	△ 60	△ 25
40～44	281	303	296	245	△ 22	7	51
45～49	9	9	8	3	-	1	5

## 2 合計特殊出生率は減少

合計特殊出生率は1.46であり、前年の1.53を0.07ポイント下回った。

都道府県別にみると、令和5年は沖縄県、長崎県、宮崎県、鹿児島県、熊本県に次いで福井県、鳥取県と同率で第6位となり、前年の7位より順位は上がった。

合計特殊出生率の年次推移

	平成2年	7年	12年	17年	22年	27年	令和2年	3年	4年	5年
佐賀県	1.75	1.64	1.67	1.48	1.61	1.64	1.59	1.56	1.53	1.46
全国	1.54	1.42	1.36	1.26	1.39	1.45	1.33	1.30	1.26	1.20

(注) 合計特殊出生率は、「15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」で、一人の女性がその年齢別出生率で一生涯の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。

### 3 死亡数は増加

死亡数は11,199人で前年の11,204人より5人減少し、死亡率（人口千対）は14.2で、前年の14.1を0.1ポイント上回った。

死亡数を年齢（5歳階級）別にみると、下表のとおり70歳以上が全体の88.4%を占め突出しており、65歳以上を含めると全体の93.1%を占めている。

また、本県の死亡率はいずれの年も全国平均を上回っているが、基準人口に全国の人口を使用した年齢調整死亡率で比べてみると全国の死亡率を下回ることから、本県の死亡率が高いのは高齢人口の割合が高いことによるものと思われる。

年齢（5歳階級）別にみた死亡数・死亡率・死亡割合

佐賀県

年齢階級	死亡数			死亡率			死亡割合	
				人口千対				
	令和5年	令和4年	対前年増減	令和5年	令和4年	対前年増減	令和5年	令和4年
	人	人	人				%	%
総数	11 199	11 204	△ 5	14.2	14.1	0.1	100.0	100.0
0～4歳	14	8	6	0.5	0.3	0.2	0.1	0.1
5～9	2	—	2	0.1	—	0.1	0.0	—
10～14	2	3	△ 1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0
15～19	9	8	1	0.2	0.2	0.0	0.1	0.1
20～24	16	13	3	0.5	0.4	0.1	0.1	0.1
25～29	12	12	—	0.4	0.4	0.0	0.1	0.1
30～34	17	19	△ 2	0.5	0.5	0.0	0.2	0.2
35～39	28	23	5	0.7	0.5	0.2	0.3	0.2
40～44	47	39	8	1.0	0.8	0.2	0.4	0.3
45～49	69	84	△ 15	1.3	1.6	△ 0.3	0.6	0.7
50～54	126	109	17	2.5	2.2	0.3	1.1	1.0
55～59	161	194	△ 33	3.4	4.1	△ 0.7	1.4	1.7
60～64	272	297	△ 25	5.4	5.7	△ 0.3	2.4	2.7
65～69	522	486	36	9.5	8.6	0.9	4.7	4.3
70～74	980	1014	△ 34	15.6	15.8	△ 0.2	8.8	9.1
75～79	1 046	1 013	33	22.9	24.0	△ 1.1	9.3	9.0
80～84	1 599	1 546	53	44.0	42.6	1.4	14.3	13.8
85～89	2 233	2 231	2	81.9	80.2	1.7	19.9	19.9
90～94	2 383	2 376	7	153.0	152.8	0.2	21.3	21.2
95歳以上	1 661	1 729	△ 68	283.7	307.8	△ 24.1	14.8	15.4

（注）率及び割合は小数点第5位まで算出し、端数処理後の小数点第1位までを表示している。

	平成2年	7年	12年	17年	22年	27年	令和2年	3年	4年	5年
佐賀県	8.3	9.0	9.0	9.9	10.9	11.7	12.4	12.7	14.1	14.2
全国	6.7	7.4	7.7	8.6	9.5	10.3	11.1	11.7	12.9	13.0
年齢調整死亡率※	6.8	7.5	4.6	4.3	3.9	3.6	9.6	9.7	10.5	10.5

※年齢調整死亡率とは人口構成の異なる集団での死亡率を比較するために、一定の基準人口にあてはめて調整した死亡率のことをいう。

※年齢調整死亡率は各年確定値とした。

※平成2年は「特定死因別訂正死亡率」

（注）1 死亡率の分母に用いた人口

国勢調査年：「国勢調査」（総務省統計局）

それ以外の年：「人口推計」（総務省統計局）、県統計分析課試算値

2 率及び割合は端数処理後の小数点第1位までを表示している。

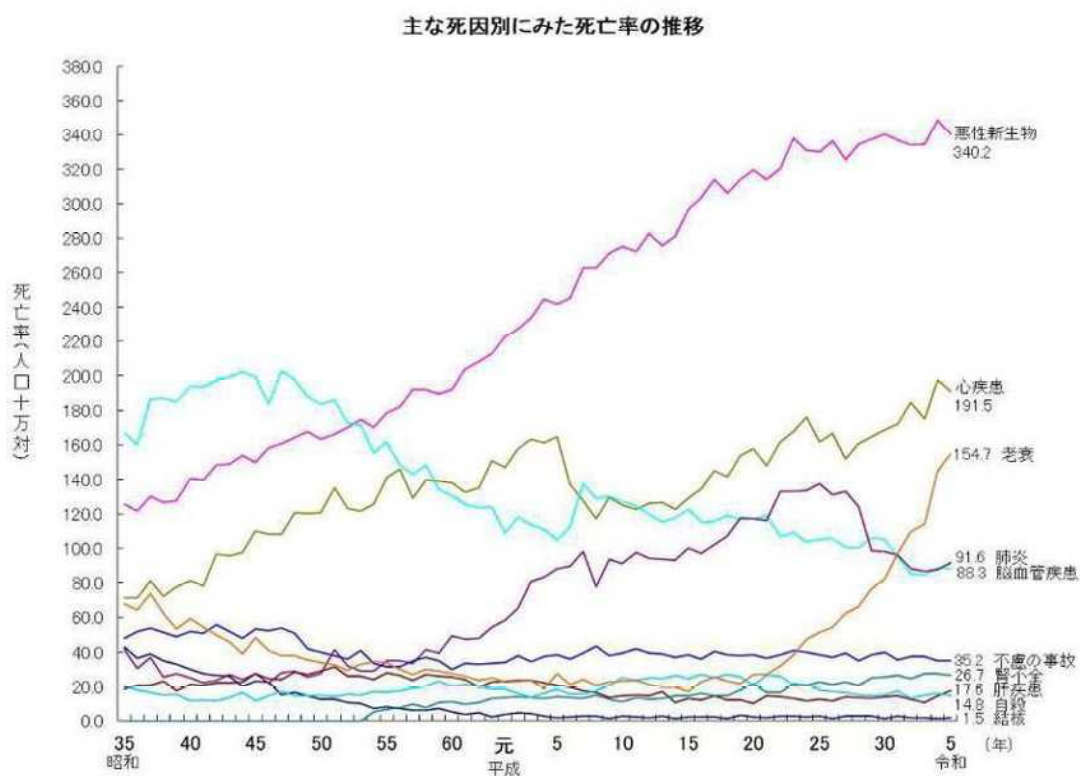
## 4 死因順位は悪性新生物が1位

主な死因別、悪性新生物の部位別死亡数・死亡率について、前年と比較すると第1表（統計表）のとおりである。

死因順位の第1位は悪性新生物で、昭和53年以降46年連続第1位であり、全死亡者に占める割合もおよそ23.9%で、全死亡者のおよそ4.2人に1人は悪性新生物で死亡したことになる。

主な死因の死亡率は、上位から「悪性新生物」「心疾患」「老衰」「肺炎」「脳血管疾患」の順となった。

また、悪性新生物<腫瘍>の主な部位別死亡数は「気管、気管支及び肺」「膵」「胃」「結腸」の順で多く、前年と比較すると「胃」「胆のう及びその他の胆道」「気管、気管支及び肺」等は減少しているが、「膵」「口唇、口腔及び咽頭」「悪性リンパ腫」等で増加している。



- (注) 1 死因分類の改正により、年次別比較には完全な内容の一致をみることはできない。  
死因内容の変遷は、人口動態統計 上巻（厚生労働省）を参照のこと。
- 2 表頭の死因名等は第10回死因簡単分類による。
- 3 「誤嚥性肺炎」は平成29年より死因順位に用いる分類項目に追加された。
- 4 平成29年の「肺炎」の低下の主な要因は、ICD-10（2013年版）（平成29年1月適用）による原死因選択ルールの特異化によるものと考えられる。

## 5 自然増減数は減少

出生と死亡の差である自然増減数は△6,055人で、前年の△5,652人より403人減少し、自然増減率（人口千対）は△7.7で、平成15年から21年連続でマイナスとなった。

## 6 死産数は増加

死産数は108胎で、前年の94胎より14胎増加し、死産率（出産（出生＋死産）千対）は20.6で、前年の16.6を4ポイント上回った。

## 7 婚姻件数は減少

婚姻件数は2,730組で、前年の2,951組より221組減少し、婚姻率（人口千対）は、3.5で、前年の3.7を0.2ポイント下回った。

また、平均初婚年齢（各届出年に結婚生活に入ったもの）は、夫で30.2歳で前年より0.1歳低くなり、妻は29.2歳で前年より0.2歳高くなった。

平均初婚年齢の年次

		平成 2年	7年	12年	17年	22年	27年	令和 2年	3年	4年	5年
佐賀県	夫	28.4	28.4	28.0	29.0	29.6	30.2	30.2	29.7	30.3	30.2
	妻	25.9	26.3	26.5	27.4	28.2	28.9	29.1	28.6	29.0	29.2
全 国	夫	28.4	28.5	28.8	29.8	30.5	31.1	31.0	31.0	31.1	31.1
	妻	25.9	26.3	27.0	28.0	28.8	29.4	29.4	29.5	29.7	29.7

## 8 離婚件数は増加

離婚件数は1,150組で前年の1,041組より109組増加し、離婚率（人口千対）は1.46で、前年の1.31を0.15ポイント上回った。